



HFHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター

第19号 2010年10月発行

カータープロジェクト09：コミュニティ再訪～82家族の生活

メコン川流域の5カ国(タイ、ベトナム、中国、カンボジア、ラオス)で2009年11月に実施されたジミー&ロザリン・カーターワークプロジェクト(Jimmy & Rosalynn Carter Work Project—Mekong Build 2009: JRCWP09)。5日間に渡って、世界32カ国から約3,000名のボランティアが集い、ホームオーナー家族と共に汗を流したプロジェクト終了からもうすぐ1年が経過しようとしています。プロジェクトの終了は、5カ国160を超えるホームオーナー家族にとって、それぞれの新たな生活の始まりでもありました。今回、その事業地のひとつ、タイ・チェンマイのNong Kon Kruコミュニティを再び訪問。82軒の住居とそこで生活を送る家族のその後を追いました。(事務局)



Nong Kon Kruコミュニティ



自宅でビジネスを始めたホームオーナー家族

「House」から「Home」へ

Ban Mai Sa Makee(新共同体)！Nong Kon Kruコミュニティで生活を送る82家族のリーダーを務めることになったKumsaen Suonさんは、今年1月、コミュニティセンターで行われた住民集会でコミュニティをこう命名しました。

チェンマイ中心部から車で約30分。コミュニティのゲートをくぐり抜けると、まずはじめに目にしたのは、個性あふれる家々。プロジェクト終了時には、全く同一の外観だった82軒。あれから1年。いくつかの家ではすでに増築を行い、別の家では生垣や植物が植えられ、中には自宅でビジネスを始めている家族もいま



コミュニティセンターと遊技場

た。どの家族も新生活を自身の力で着実に力強く送っていると感じました。

最大の変化=子供の養育環境

また、彼ら82家族にとって最大の変化であり改善したことの一つとして、子どもたちのための安全かつ健全な養育環境を手に入れたことがあります。訪問中にも、子どもたちが近所を駆け回る姿や、学校から集団下校する姿を目撃することができ、コミュニティがうまく機能していることを確認する良い機会となりました。ホームオーナーの一人であるChunkumさんが「より良いコミュニティを築こうとみんなで協力し合っています。これも、プロジェクト開始前から(ハビタットのSweat Equityという制度を通して)ホームオーナー家族みんなで一緒に準備をしてきた成果だと思います」と語っている通り、Nong Kon Kruには持続的な地域発展が

可能な土台が作られつつあることを確信する訪問となりました。

持続的発展へ向けて

国を越えたメコン川流域でのプロジェクトは、開始から1年、住居建築支援から地域開発支援へと形を変え、現在も続いています。一過性の支援に終わらないプロジェクト、これがハビタットの目指す支援のかたちであり、そして今年も現在、新たなコミュニティ支援のため、米国ワシントンD.C.を中心にカーターワークプロジェクトが行われています。



日本人チームが支援したニランさん一家

企業支援：タイの家族と一緒に家を建てる8日間

全国から集まったボランティアで構成されたチーム、“Japan Hope Builders”がタイ第二の都市、チェンマイ郊外での住居建築活動を終え、8月末に帰国。昨年に引き続き、大和ハウス工業株式会社から財政支援を受け、ホームオーナー家族の新しいスタートとなる家づくりをお手伝いしてきました。<第3面>続<





初支援！インドネシア バリ島GV活動報告&体験記（8/29～9/13）



コンクリート運び！



ホームオーナーさんと！

知ってますか？バリ島の本当の姿

世 界的な観光地として知られるバリ島。その特殊性は、17,000以上の島々からなるインドネシアで唯一のヒンドゥー教の島ということ。そして、そのヒンドゥー教に不可分なカースト制度は、インドほどの厳しさはないものの、今なお目につみにくい形で存在していると言われていいます。そしてまた、観光地だからこそ生まれる経済格差が存在する島、それがバリ島です。今夏、私たちはバリ島北部に位置するギギ地区での住居建築活動(GV)を行ってきました。

ギギは、最低限必要な食費以下の収入で暮らす家族が地区全体の58%を占める、バリ島の中でも最も貧しいエリアの一つです。現地ハビタットスタッフは「ギギにもカーストの名残があり、身分の階級格差をなくすことが私の使命だ」と語っていました。私たちが支援を行ったホームオーナーさんは、子どもの養育にとって適切な家を手に入れたいと考え、ハビタット・ハウスを申請し、私たちは、その「夢」の実現に向け、ホームオーナーさんと一緒に土台すら無い土地にーからコンクリートブロックの家を建て始めました。

ワーク初日の作業は地面を平らにすることから始まり、連日、支柱を建て、セメントとブロックで壁を積み上げていきま

ハビタット・ジャパンでは、インドネシアのバリ島で実施するプロジェクトに、今夏からボランティアチームの派遣を開始しました。華やかな観光地としてイメージされるバリ島。そんな現地への支援として Rits Habitat（立命館大学）がこの夏、国内外で行った活動の様子を報告します。（立命館大学CC・吉川達也、長谷川奈美）

した。全員でバケツリレーを行った時、“Work as a team”というハビタットスタッフの言葉が心に響きました。途中大雨や宗教行事でワークが中断し、家の完成には至りませんでした。現地の方やチーム間で絆が生まれた16日間でした。

たくさんの方からご支援頂きました！

渡航前には事前活動として、街頭募金や協賛案内などを行いました！真夏の太陽が降り注ぐ京都・祇園の街で店舗協賛を獲得すべく、企画書片手に1店舗ずつ巡ったその経験は「学生らしい」ものだったと思います。そして2日間で67店舗訪問し、2店舗からご支援を頂いた時はとても感激しました。



街頭募金活動

学外活動を通じて、人々の温かさに触れると同時に、社会の厳しさや学生の甘さを学ぶ大変貴重な経験となりました。初参加の一回生は、「GVがなかったら、この夏はきっとつまらないものになってたかも。活動が終わってしまい寂しいけれど、今後この経験を友達や社会に広めていきたい」と感想を漏らしていました。私たちの活動をご支援下さった皆様、ホームオーナー家族、現地の大工さん、ハビタットスタッフのみなさん、ありがとうございました！！

ハビびと

石井 洋さん 日本リージャス株式会社

などをハビタット・ジャパン主催のGV事前研修会で行ってきた。また、定期的開催される国内イベント(ハビびと集会など)にも参加、「GVIに参加した若者の話を聞くことを大切にしてきた」と語る。

2009年秋には、休暇を利用してジミー&ロザリン・カーター ワークプロジェクト(JRCWP)に参加。「自分に何かできることはないか？」と考える世界中のボランティアに会い、タイで82軒の住居建築に携わった。「みんながいるからできた」、素直にそう思えた。「できることから始める。若者の話を聞いたり、同じ志を持つ仲間に出会う。そういう接点が大事」。こう話す石井さんは、仕事以外でできることに一つ一つ取り組み、年一回のGV参加を目標としている。(青山学院大学CC・狩野恋那)

みんなで作り上げる！こゝハビタットの良さを語るの、石井洋さん。ハビタットと出会う前は「何でも一人でできる人間」、そんな考えを持っていたと話す。

ハビタット・ジャパンとの出会いは、以前勤めていた旅行会社での営業時代に遡る。お客様と旅行会社の営業という関係だった。「人

助けを海外でしてみたい」、そんな思いを抱いていたので、偶然誘われた2007年のタイでの海外住居建築活動(GV)には迷いなく参加。「国際協力に取り組みたいと考える若者がいくつもバイトを掛け持ちしてGVに参加する、そんな彼らの熱い思いに感動した」、と当時の思いを振り返る。また、「みんながいたから家を作り上げられた。人との繋がりがから人に対する思いやりが自然に生まれた」、そんな気づきがあったことも明かしてくれた。

帰国後は、ハビタットの活動に取り組む若者の力になりたいという思いから、仕事をしながらできることを探した。そこで、仕事を生かしてパスポートやビザ取得のアドバイス





企業支援：ハビタット・プレミアムナイト with Oakwood 開催 !!

8月19日、オークウッドプレミア東京ミッドタウン(六本木)において、「ハビタット・プレミアムナイト」を開催。ハビタット・ジャパンのサポーターを含め、50を超える企業・団体から総勢60名もの社会人が集まり、ビールやワイン片手に、国際協力のエッセンスを交えながらの異業種交流会を行いました。

会場では、世界で活動するハビタットの映像を放映しながら、イベント中盤にオークウッド社提供のワインやハビタットグッズなどをかけたハビタット・クイズを実施。国際協力やハビタットの活動に触れ、また連日の暑さにちょっと一息入れる東京の夜になりました。

参加者は、「こんな素敵なラウンジでワイン片手に国際協力なんて、とてもオシャレですね」、「NGO主催の交流会とは

米国を拠点に世界約30カ国でアパートメントサービスを展開するオークウッド社(Oakwood)。今回、同社の創立50周年を記念して実施する社会貢献事業の一環として、また「住まい」を提供する組織という接点から、ハビタット・ジャパンとのコラボが実現。六本木でハビタット・ジャパン初の異業種交流会を開催しました！(事務局・山本真太郎)

思えないほど、いろんな業種の、また経歴豊かな方々が集まっていて、貴重なつながりを広げることができそうです！、「今回何も知らずに参加しましたが、クイズを通して国際協力やハビタットのこと

かせていました。

今回のイベント参加費による収益は166,000円となりました。本収益金は全額、オークウッド社(オークウッドプレミア東京ミッドタウン)を通じ、来春(2月~3月)にタイで行う住居建築支援活動に充てる予定です。



タイ・チェンマイで築いた希望☆

<第1面からの続き>...

ハビタットでは、1998年にタイでの活動を開始して以来、チェンマイ県で600軒近くの住居支援を行ってきました。今回集まった年齢も所属先も異なる、様々なバックグラウンドを持つ12名(学生9名、社会人3名)は、5日間、ホームオーナーのSuriinさん一家と現地の大工さんと共に、汗をかきながらコンクリート作りや壁となるブロックの積み上げ、トイレ用穴掘りなどの作業に取り組みました。作業最終日には、参加者からSurinさん一家にカギを贈呈(House Dedication)。Surinさんが「感謝の気持ち、ただそれだけです」と涙をこらえて話す姿に参加者の目にも涙が溢れ、最後は再会を約束しお別れしました。



ブロック積み上げ作業

ワークの他、参加者は近隣の小学校やハビタット・ハウスが建ち並ぶハビタット村を訪問し文化交流を楽しんだ他、チェンマイの観光も楽しみました。来春も引き続きチェンマイでの活動を予定しています。異文化に触れながら、家を建て、世界の現状を学ぶ、そんな国際協力にあなたも参加してみませんか？(事務局・高橋範子)



カギの贈呈式

静岡合同ワークショップ開催

~交流・理解、新たな気付きが生まれる2日間~

9月25日、26日の2日間、静岡県御殿場市にある国立中央青少年交流の家で、CC東西合同ワークショップを行いました。開催は、昨年に引き続き2回目。「交流・理解~新たな気付きが生まれる2日間」というテーマの下、全国15のCC/CClubのメンバーやGVに初めて参加する予定の名古屋外国語大学からのメンバーを含む総勢100名が集まりました。初日夜には、「課題解決ワークA」として、その日の夕食作りを実施。10チームが、レシピなどを与えられない中で課題メニューの作成に取り組み、話し合ったり、助け合ったりする中で、大学や学年の垣根を越えた交流を行いました。

2日目は、「課題解決ワークB」として、「貧困住居問題を考える~あなたがつくる住居支援プロジェクト」を実施。自分たちがハビタットのスタッフになった視点から、住居支援プロジェクトの立案を行いました。参加者は、それぞれのGV経験を議論に反映させながら、プロジェクトといういつもより大きな観点から捉え直すことによって、国際協力そしてハビタットの活動に対する理解をさらに深めていました。(事務局)



集合写真!!



グローバルフェスタJAPAN2010 出展 (10/2~3)

日本最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタ JAPAN2010」に参加してきました！今年は国連が中心となって掲げるMDGs(ミレニアム開発目標)達成年度ということに加え、秋の晴天に恵まれ、昨年を上回る106,000人が来場。例年以上に会場全体が盛り上がりました。

ハビタット・ジャパンでは、「家とは自分にとってどんな存在か？」と来場者に問いかけることで、ハビタットが行う住居建築支援の意義、そして「人間が人間らしい生活を営む基盤である『家』」を支援することへの理解を深め、関心につなげて



もらえるような展示を各学生支部メンバーと共同で企画。当日は、ハビタットが取り組む世界各国での住居建築活動の様子をパネルや写真を用いて展示した他、実際に海

外住居建築活動(GV)に参加した経験のある学生スタッフが来場者一人ひとりに付き添い、活動への理解を深めてもらいました。

また、家づくりワークショップも実施。「あなたにとって家とは？」との問いかけに対する回答をブロックに見立てた段ボールに書いてもらいました。参加者からは「安らぎ」、「要」、「休」など家に対する思いが込められた言葉が寄せられ、一つの「家」を築き上げました。(今後は募金箱として活用する予定です。)

今回のイベントを通じて、国際協力に関心のある同世代の若者から年配の方々までたくさんの方に足を運んでもらい、展示を見てもらうだけでなく、意見を交換し合う場となったことで、スタッフにとっても刺激ある有意義な2日間になりました。(明治学院大学CC・菅原俊之)



お知らせ！

この度、中央大学(C-HABITAT)と神戸市外国語大学(KOBE Gaidai Habitat)にハビタット・ジャパンの学生団体(CClub)が誕生！また、早稲田大学のWHABITATが2年の活動を経て、ハビタット・ジャパンの学生支部(CC)として活動を開始しました。現在、日本全国で19のCC/CClubが活動中。ハビタット・ジャパンHP内ユースプログラムに各団体とそのユニークな活動を紹介しています。是非ご覧ください！(事務局)

編集後記

今夏、ハビタット・ジャパンから海外に出発した全21チーム、総勢350名が現地での各々の活動を終え帰国しました。そして、現在、7月号のニュースレターでもご案内したネパール「EVEREST BUILD」にて、社会人と学生の全12名からなる日本チームが10月2日より現地入りし、10日間の日程で、竹と土を利用しての興味深い建築活動を行っています。来月号での報告をお楽しみに！(事務局)

寄付・助成金リスト (2010.7.1-9.30)

みなさまのご支援は「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」実現のために使わせていただきます。ご支援ありがとうございました。(敬称略・順不同)

7/16	野崎 元廣	3,000
7/30	(特活) 国際協力NGOセンター	116,400
8/19	ホークウッドプレミア東京ミッドタウン	166,000
8/23	American School in Japan	133,173
8/26	稲垣 寛樹	3,000
9/15	ホークウッドプレミア東京ミッドタウン	35,000
9/30	(株)ネプロアイティ (募金箱)	468
9/30	ホークウッドプレミア東京ミッドタウン	2,156



ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは住宅を建てることでコミュニティを築く自立支援型NGOとして、これまで、人種、宗教、国籍に関係なく100カ国で35万軒余の住宅建築支援を行ってきました。そして現在、世界中で21分に1軒のペースで住宅を建てています。

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-13-11 CHARI千駄ヶ谷401
Tel: 03-6459-2070 / Fax: 03-6459-2071
URL: www.habitatjp.org / Email: info@habitatjp.org

発行人: 小田 浩
編集人: 山崎顕太郎、高橋範子、山本真太郎

事務所移転のご案内

この度、当団体は9月16日(木)より左記へ移転し業務を行うことになりました。今後ともより一層のご指導とご支援を承りますようお願い申し上げます。
なお、URL & Emailはこれまで通り変更ありません。

